

# ときめき

**特集** 防災座談会

## わが家 わが町

～地域のつながりを大切に～

2011 秋

NO.

47

### Contents

2. トップインタビュー
4. 特集 防災座談会 わが家 わが町 ～地域のつながりを大切に～
9. 『フィフティな川柳』入賞作品発表
10. 情報ホットライン 書籍紹介／講座レポート
12. フィフティ<sup>2</sup>から パープルリボン・キルト・タペストリー／今後の講座予定／センター利用案内



# しなやかに年輪を重ねて

## 茶の湯でふれあう心と心

東久留米市文化協会茶道会 表千家教授

しろみず そうちよう  
城水宗澄さん

お茶を始めて70年余。85歳の今もお弟子さんを育てながら、市内の方々と茶の湯を通して交流していらつしやる城水さん。持ち前の好奇心と向学心に加え、足どりも軽く、どこへでもお出かけになる行動力は、年齢を越えたパワーを感じさせます。その元気の秘訣や長年にわたる活動についてお話を伺いました。



### 生涯の付き合いとなるお茶との出会い

私が娘の頃の花嫁学校では、お茶とお花、料理が主で、他に日本史と国文学を学ぶくらいでしたから、最初にお茶に出会ったのは学校だったんです。本格的に始めるようになったのは、結婚して、義母に勧められてからです。

私は東京で生まれ育ったんですが、<sup>はたち</sup>二十歳のとき、九州で大きな事業をしている家に嫁ぎましてね。13人の大所帯でした。義父が可愛がつてくれましたし、義母も優しくかったので、舅姑の苦労はありませんでしたよ。

でも結婚の翌年に義父が癌をわずら

い、入退院を繰り返して3年後に亡くなりました。しばらくして義母が脳梗塞で4年間寝たきりになり、その義母を見送った翌年には、今度は夫が癌で入院いたしました。1年余りの闘病のうち、夫も亡くなりましたね。私が33歳、夫は40歳でした。私の13年間の結婚生活は病人の介抱のための生活でした。3人の娘たちは、まだ小学生でした。

夫を亡くして、何も手に付かずぼうつとしておりましたが、気を取り直してお茶の稽古を始めました。お茶の先生が私を案じて「これからの生涯を送るために教授者になったら」と勧めてくださいました。この先生との出会

いが大きな転機となりましたね。ダメでもともと、と思い、列車で1時間かかる先生のお宅に通い詰めました。学校から帰ってきた子どもたちが、毎日怖い顔をして一人で稽古に励んでいる私を見て、「お客になってあげよう」と言ってくれましたね。

夫がおりませんので、3人の子どもたちが学校を出るまでは大変でしたが、それぞれ結婚して家を出てからは、一人になりましたのでお茶に精を出しました。その後、娘のいる東久留米に来ることになって、東京にいらつしやる家元のお姉さまに入門いたしました。代替わりしましたが、今でも毎月お稽古に通っております。

### 茶の湯と歴史の関わり

利休を始め、お茶は歴史の場面にも出てきます。明治になってからは女性の礼儀作法の一つとして、学校で教えるようになりましたが、当時は男性だけに許された武士のたしなみで、狭い茶室は、戦や政の密談の場でもあったんです。お茶を学ぶことは歴史を学ぶことにもつながります。私がお茶を続けられたのは、歴史が好きだということもあるでしょうね。

東久留米にも面白い史実がたくさんありますよ。千年以上も前に在原業平が市内の多聞寺に立ち寄って、笠を枝に掛けた松の木、笠掛松が今でもあり

ます。子どもたちがそういうことを知れば、歴史が身近なものとして面白くなるでしょ？ ぜひ伝えたいですね。

今年の4月に柳窪の村野家でお茶会を催しました。私は「東久留米の水と景観を守る会」の会員で、柳窪地域には度々行っておりましたが、今年、その地域にある村野家の建物が国の登録有形文化財となりました。それを祝って、茶室のお披露目をする事になり、私がお手伝いをいたしました。市の茶道会の先生方をお招きしてお茶を差し上げ、ご当主からも柳窪と村野家の歴史のお話を伺いました。いい茶室なので市民のみなさんに使っていただきたいと思っています。

### 茶の湯を通して地域と交流

東久留米の湧水が平成の名水百選に選ばれたことを記念して、茶道会の先生と2人で、昨年、一昨年と氷川神社で「ホテルの夕べとお茶会」を催しました。150人近いお客様がいらしてくださいました。

また、地域の子どもたちにも茶の湯の体験をさせています。20数年前、瀧山の西部地域センターができたとき、世話人募集があつて以来のお付き合いで、毎年センター祭りのオープニングの日にお茶会をしています。一般の方も洋服で気軽に参加なさいますし、お子さんも自分でやりたがりです。茶筌



茶の湯体験教室

で点てるのが面白いのでしょね。桜まんじゅうを子どもたち自身で作らせ、お茶も自分で点てさせます。お菓子作りは何年か続きましたね。

特別養護老人ホーム「けんちの里」でお茶を差し上げるようになったのも、市の老人会に入り、ボランティアで食事の介護に行つたのがきっかけです。だんだん人が減り、今は私だけになってしまいましたね。今年の初釜では、60数人の車椅子の方々にお茶を楽しんでいただきました。飲み込めない方にはとろみをつけてあげたり、お茶碗を持ってない方には口まで運んであげます。施設の陶芸教室で作つた自分のお茶碗でいただく方や、ご自身でお茶を点てる方もいてそれぞれに喜んでく

ださい。でも、私も年ですから、人に迷惑をかけることになってはいけないと自省

して、無理をしないようにやっております。

こうして年をとつても、習いにきてくれる方がいるので張り合いがありますし、お茶を差し上げることで、たくさんの方々とのふれあいもあります。

茶の湯の心とは相手が喜ぶように思いやりを持ってもてなすこと。おもてなしの心です。お茶をやっている人は心がやわらかいですよ。長いことお茶を続けてきましたが、良かったと思いますね。

長い人生の道には多くの困難やご苦労もありだつたでしょうが、それを微塵も感じさせず、はつらつとして、物事に対して常に前向きで積極的に活動されています。長年にわたるボランティアについても「ほかにすることがなかつたから」と気負いもなく淡々と語られます。歴史の話になるとお声も弾み、少女時代に戻つたように楽しそうでした。

自然体で、しなやかに85の年輪を重ねてきた女性の、凛とした美しさを感じました。

2011年9月、市の文化協会茶道会が主催した「国の有形文化財」登録記念茶会が、村野家で盛大に催されました。二百人に及ぶ方々が、お茶とともに、文化財や武蔵野の風情あふれる庭園を楽しみました。



▲村野家茶室にて  
◀村野家主屋前で当主ご家族を囲んで

撮影協力：郡司恒夫氏（東久留米の水と景観を守る会）

2011年1月、市内柳窪の「村野家住宅」の主屋（しゅおく）・離れをはじめ、門・蔵など7件が東久留米市で初めて国の「登録有形文化財」に登録されました。

江戸時代から明治・大正期にかけての農村風景を現代に伝えている貴重な歴史的景観が評価されたもので、一つの屋敷内で7件もの文化財が登録されることは珍しいことです。

# 特集

## 防災座談会

# わが家わが町

## 地域のつながりを大切に

—3月11日に起こった東日本大震災は私たちの暮らしを根底から揺るがせました。不測の災害への備えは、日ごろからさまざまな立場で考えておく必要があります。東久留米を拠点にご活躍の皆さまにお集まりいただき、防災の面からお話しをお聞きしました。

### 未曾有の震災体験から

—まずは震災当日の様子を教えてくださいませんか。

**西川** 東久留米市消防団の副団長を仰せつかっております。地震発生時は市内で仕事をしていました。その後、市役所から招集を受け、消防団本部の団長と副団長2人の計3人は有事に備え

て夜12時くらいまで市役所で待機してました。

**小俣** 浅間町自治会長を12年務めております。東久留米でも1、2を争う高齢者の多い地域です。今年8月末現在、約400世帯が所属し、70歳以上の方が243人おります。緊急時に備え、自治会独自に高齢者を年代別に割り出した表を作成しています。



### 参加者

- 西川嘉弘さん (東久留米市消防団副団長)
- 小俣利夫さん (浅間町自治会長)
- 小林宏繁さん (自由学園男子部高等科教諭)
- 木山直子さん (東久留米市在住)
- 坂口真紀さん (Nicot 東久留米園長)

\*写真左から

今回の震災時、85歳以上の方には自治会の誘導があるまで落ち着いて自宅待機するように連絡しました。また、住民には以前から2リットルの水かお茶を3本以上、各家庭で常時備蓄するよう、お願いしています。震災後には、市に連絡をして指定避難場所の自由学園を見学させてもらいました。

### 小林

今年3月まで学園全体の安全委



員会の担当をしておりました。地震発生時、中高生と最高学部（大学）の学生はそれぞれ学内で活動中でした。幼児生活団の園児はその日は卒業式で、保護者と一緒に帰宅していました。初等部の児童も帰宅途中でしたが、大多数が電車やバスなど、公共交通機関を利用して行きました。教師がひばりヶ丘駅に迎えに行きました。初等部の保護者には直接学校にお越しいただき、最後の子どもを引き渡しが完了したのは夜中の12時くらいでした。

**木山** 私は4人の子どもを持つ母親です。平日は都心で働いているので、その時も仕事ででした。

一番下の子どもは幼稚園がお休みでしたので、※注ファミリリー・サポート・センター（8ページ参照）のサポート会員の方と在宅していました。小3の三男は下校途中でしたが、いつも学校で指導されている通りにブロック塀から離れてしゃがみ込み、その後帰宅したそうです。小6の次男は運動場でサッカーをしていて、木がぐわーんと揺れ、体育館の窓がバンバン鳴っていたと教えてくれました。中3の長男は卒業式の練習中で、1時間後に下校しました。私は慌てて学校や家、近所の方に電話しましたが、全くつながらない。ようやく家の固定電話につながったとき、こちらは涙声なのに三男は意外に呑気な声でした。長男はファミリリー・サポ

ト・センターの方と次男を学校に迎えに行ってくれました。その後も長男は、弟たちにご飯を食べさせて大きなダイニングテーブルの下に寝かしつけたり、パソコンから状況をメールで知らせてくれたりと、家を守ってくれました。

都内の別の場所で働く夫と途中で合流し、2人で歩いて夜中の2時くらいに帰宅できました。まさに「帰宅難民」でした。

**坂口** 昨年6月、Ebisu 東久留米（駅ビル）1階にオープンした定員60人の認可保育園「Zoot 東久留米」の園長をしております。

地震が起きたときはお昼寝が間もなく終わる時間帯でした。泣き出すお子さんもいましたが、月1回の避難訓練の成果もあり、比較的落ち着いて先生の指示に従い、毛布を被るなど身の安全を確保できました。保護者の中には自主的に早くお迎えにいらした方もいましたが、電話は非常につながりなく、交通機関も止まり、お迎えは困難な状況でした。父親母親それぞれが園に電話をかけ、園を介してお互いの無



坂口さん

事を確認できたケースもありました。通常の延長保育は夜8時までですが、その日はお迎えが夜12時半過ぎや翌朝になったお子さんもいました。

### 地域が担う防災の役割とは

―普段から防災面で心がけていること、また、震災後に対策を講じたり、考えられたことなどあればお聞かせください。

**西川** 地震発生時、ご近所に出て安否確認などの声かけをされている方があまりいなかったことがちょっと気になりました。皆自分のことで精いっぱいになっていたんですね。私も道すがら行き交う方と声をかけ合いました

が、こういうときは男性よりも女性の優しい言葉や配慮にほっとします。例えば、野菜即売所にいる方や横断歩道で子どもを待つお母さんなど、外にいる方が普段から声をかけ合っていて、こういう不安な状況でも言葉をかけてくれたら、子どもやご年輩の方は安堵するでしょう。緊急時、家に閉じこめるだけでなく、外に出て声をかけ合うサポートができたらと思います。

**小俣** 浅間町では、独自に防災資料を作成して、昨年9月、400世帯に配布しました。会則や組織図、避難場所の地図や、市で毎年開催する有料の防

災教室に町会から2人ほど参加して学んだことなどをまとめたものです。

また、浅間町には2人の民生委員がおりまして、その方々と自治会の懇談会も私が企画して行いました。今までは全く接点がありませんでしたが、緊急時の対策を考えればこの二つの組織が協力しあうことは不可欠です。

災害対策の備品は充実していますよ。担架10台、照明器具15基、発声器、業務用の大型発電機1台と小型発電機6台、200食分の食事が作れる鍋釜、簡易トイレ3台、ジュラルミンの折りたたみリヤカーも3台あります。住民には各自非常食の備えをお願いしています。自衛も大切です。

**西川** 自治会と消防団は接点もありますので、状況に応じてそれぞれに把握している情報を共有できたら、災害時の支援は行いやすいですね。



西川さん

―自由学園は指定避難場所でもありませんが、災害対策についてどのようにお考えですか？

**小林** 今回の震災は「想定外」のもの

でしたが、「想定外」のことが起きたときにどうすべきかを考えることも必要だと実感しました。物資の調達はもちろん、高齢者や乳幼児、妊産婦などへの配慮も重要です。支援できることを男性、女性それぞれの立場で考えるべきです。例えば、避難所でプライバシーを守るためのついたてや、男女別の衛生面にも気を配ったトイレなど。各家庭でできることには限りがありますから、市の対策が求められます。

中高、大学の女子学生は、乳幼児や妊婦へのかかわりを持ちやすいと思います。地域の家庭の主婦の方なら子育ての経験を生かした子どものケアができますね。物資だけでなく、人としての心の対話の持つ力も大きいでしょう。

—学校でそのような指導もされているということでしょうか。

**小林** ええ、園児へのかかわりを学んでいる学生や、特別養護老人ホーム「シャローム東久留米」で学んでいる学生もいますので、学校としてさまざまな形のケアができる場面もあるかと思っています。



小林さん

—木山さんは後日、近隣の方などと話されたことはありますか？

**木山** ご近所の方にわが家の状況を話すと、「言ってくれたら手助けできたのに！」と言われました。そのときはお互い気付かなかったんですね。ネットワークの存在は起こった後に気付く部分もあります。備蓄も大切ですが、親として日ごろから「心を育てる」ことが大事だなと思いました。非常時に突然、ではなく日常で困ったとき、大変なときにどう助け合うかという教育の必要性を感じます。子どもは「あの人が助けられた」ことや「誰かを助けた」ことなどを覚えていきます。信頼関係、思いやりのあるつながりは、日ごろの関係が大事です。

保育園の子どもたちが落ち着いていたのも、先生がいれば安心という気持ちがあったのでしょう。日々地域の方とつながる土壌づくりが必要だと母親として思いました。中高生の息子たちとは、緊急時に連絡を取り合うシステムや、各自でできることを話し合っています。

—保育園で話し合われた事はありますか？

**坂口** 家事・育児へのお父さんのかかわりの大切さを感じます。子どものことをお母さんだけでなく、お父さんも

心配され、また妻のことも気遣う様子というのは非常に安心できます。子育てに対して協力的なお父さんの存在は大きくなっています。

園で働く保育士も家庭がありますので、各自電話連絡などを行ってもらい、帰宅後などには早退し、近隣在住の保育士で態勢を整えました。

後日、東京都の金町浄水場で飲料水に基準値を超える放射性物質が検出され、乳児には水道水を与えないようにという指示が園の本部より出ました。東久留米市は対象外でしたが、いつ同じ状況になるか予測不能な事態のため、ミルク用の軟水を確保するために奔走しました。そのとき備えた水が今は備蓄となっています。

保護者との連絡の取り方も課題です。携帯電話では、所在がわかりにくい面もあります。今後はどこにいてもかも確認させていただくことを考えています。

—浅間町自治会は市内の他の自治会との交流はありますか？

**小俣** 浅間町地区センターを拠点にした7つの自治会で協議会を立ち上げましたので、その間ではあります。

浅間町自治会では、毎月1回イベントを企画しています。センター清掃、資源回収、芋掘り、ジュニアの会、書道、

カラオケ、餅つき大会、マージャンなど。興味のあるものに参加してもらえたら意思疎通が図れますし、仲間意識も高まります。継続して行うことが大切です。特に子どもは垣根がありませんからね。盆踊りだけでなく、餅つき、ラジオ体操などは地区に関係なく参加してもらっています。



小俣さん

—子どもを通してその親御さんとのつながりも生まれそうですよね。

災害対策を考えると、女性の活躍や視点も重要になると考えられますが、消防団や自治会の役員の中に女性はいらっしやいますか？

**西川** 多摩地区で女性団員が所属する消防団は9市あり、活動は広報と応急救護講習がほとんどです。東久留米も検討を重ねているところです。

**小俣** 浅間町自治会には「班」や「組」があり、連絡網があります。36人の班長組長の中には女性もいます。

**木山** 保育園での母親同士のつながりはどうですか？

**坂口** 今回の地震を通して「お互いに協力し合えることは何か」という気持ちにより強まってきているようです。

災害が発生した場合、保護者の方が直接お迎えに来られない事態も想定されます。その際、事前にいただいている資料の緊急連絡先に記載された方に、保護者の直接確認なしで引き渡し可能かということを確認しています。共働きの核家族が多く、近隣の方からのご支援が難しい部分もありますが、考えておいてくださいと話しております。

### 防災まちづくりのために

― 防災に関して市や地域に望むことは何でしょうか？

**小林** 市には、より具体的なシミュレーションを行った上で、実際の状況に即した計画を作り、防災訓練を避難場所ごとに行っていたいただきたいですね。また、市としての懇談会を開き、災害対策状況を知らせてほしい。備蓄がどの程度か明示してもらえたら、各家庭でそれを踏まえた準備もしやすいでしょう。

**木山** 広報でこういう備えはここにありますがお知らせいただけたら安心です。個人で何が必要かも考えやすいです。市ができる支援が明らかにな

れば、私たちで補い合う部分もわかります。

先ほど西川さんから、近所の声かけが大切とお話がありました。下校途中の子どもたちは近所の女性が話しかけてくれて安心したそうです。この時間帯は子どもが歩いていると察知して外に出てくれた方がいらつした。思わずとられた行為ですが、子どもはとつさの判断に鈍るところがあります。「大丈夫？」「ここで待ちなさい」「急いで帰るなさい」など状況に応じた声かけをしてくださる地域の方はありがたいです。

**小俣** 市の持つ情報をもっと公開してほしいですよ。言いにくいこともはっきり言ってもらいたい。実際、二小に500人、1000人と避難したら大変なことになると思います。水が止まれば水洗トイレは使用できなくなり。どの教室を使ってよいのかも教えておいてほしいです。食料も小学校にはありません。行政頼みではなく、自衛も必要ですが、市も備蓄状況をはっきり伝えていただきたい。

**木山** 避難場所はどこか、収容人員は十分なのか、安全な建物という確証はあるのかなど、不安があります。また、さまざまな立場の人が話し合わないといけない部分もあります。私は母親として、被災地のミルクやお

ムツの不足をすぐに懸念しました。透析している友人は病人の支援を考え、私はそこには気付かなかった。介護されている方は介護用オムツとか、皆、自分の生活を基準に考えて足りないものに気付けるんですね。どんなに自分なりに支援を考えても、一人の人間が考えることには限界があります。



木山さん

### 「つながり」から始まる防災

― 最後にご意見ご感想をお願いします。

**西川** 各団体などの意見は参考になりました。消防団も各自で備蓄品を揃えているところも出てきています。災害時に皆さんに協力できる方法を考えていきたいですね。

**小俣** 浅間町自治会は私を含め先代も10年以上会長を務めています。月1回の行事ができるのも歴史があるからです。先述の他にも特別養護老人ホーム「マザース」の会議、シルバーパスの発行、防災訓練など全て掲示板でお知ら

せて、興味のある方へ門戸を開いています。これを40年やっていけば自然と自治会活動が住民に定着します。東久留米には約140の自治会がありますが、市に決算報告しているのは100〜110というのが現状です。強制ではないので継続的な活動は難しいでしょう。

**小林** 大事なのはつながりです。木山さんが「心を育てる」とおっしゃっていましたが、学校に避難してくる地域の方にどのような対応ができるかを考えていくことは、教育にとつてすごく大事なことです。そういった物事の一つひとつに人を育てる場があります。そういう意味でも、学校はきちんと地域の方々に使っていただくための用意をしていきたいと思っていますが、「自分でしなければいけないことは自分です」という意識を市民一人ひとりが持つことも大切ですね。

「一人ではできない」ことを地域のつながりでどう対応していくか、分けて考えるとよいでしょう。

**木山** 「その日」に備えて家族で話し合っていると思うています。都心で仕事を続けることに不安も感じましたが、強い子どもであることを信じ、働き続けることを選びました。仕事をしなくても、一緒にいられるかどうかはわからないわけですから。

## 坂口

昨年9月に引き取り訓練をした際に、保護者の方にはご自宅の避難場所を防災マップで確認してもらいました。今回の震災で防災意識が高まりましたので、これからも引き取り訓練の際に防災に関する情報確認を行ってきたいです。

続く余震で夜眠れなくなっていました。お子さんもいました。保育園ではスキンシップや楽しい遊びを大切にしたいので、子どもたちの笑顔を絶やさないよう尽力しています。

子どもたちは日本の未来を担う人材です。大人には、命や人と人のつながりの大切さを、行動を通して示していく責任があると思います。

「今日はお集まりいただき、ありがとうございました。『ときめき』を通してご家庭や職場、地域にも防災意識が広がることを願っています。

今回は防災という面からでしたが、それぞれの立場でさまざまな人をお願いすること、地域でつながりを持つことが大切だと改めて感じました。

### ※注 ファミリー・サポート・センター

子育てのお手伝いをしたい方(サポート会員)と、子育ての手助けをしてほしい方(ファミリー会員)が会員となって、地域で助け合う組織です。お問い合わせは社会福祉協議会ファミリー・サポート・センター事務局(042・475・3294)へ。

## 防災インフォメーション



普段から家族で「火の始末をする係」「高齢者の安全確保をする係」「持ち出す荷物の分担」など家族の役割や、連絡方法、避難場所などを話し合い、確認しておきましょう。

- 指定避難場所は市防災マップに記載してあります。災害時には最寄りの避難場所へ避難してください。

\*詳しくは防災防犯課 防災防犯係 (042・470・7777 内線2223) へ。



市では災害時に備えて食料や応急対策用資機材を備蓄していますが、家庭でも、最低3日分の食料は確保するようにしましょう。

- 市の防災対策や備蓄に関しては「東久留米市地域防災計画」に記載されています。「東久留米市地域防災計画」は東久留米市のHPや市役所2階市政情報コーナーでご覧いただけます。また、防災計画については東京都の改定に合わせて来年度以降に改定版を策定予定です。



## わが町をわが手で守る「消防団員」を募集しています！

東久留米市に居住し、またはお勤めの18歳以上で消防団に関心のある方。

\*詳しくは防災防犯課消防係 (042・470・7777 内線 2225) へ。

### 男女平等推進センターから

昨年策定された内閣府の第3次男女共同参画基本計画の中にも防災(復興)の取り組みを進めるに当たっては、男女のニーズの違いを把握して進める必要があり、男女共同参画の視点を取り入れた防災(復興)体制を確立する旨の施策の基本的方向が示されています。

また、6月24日には東日本大震災復興基本法が公布・施行され、東日本大震災復興対策本部が内閣に設置されました。「東日本大震災からの復興の基本方針」の中でも「男女共同参画の観点から、復興のあらゆる場・組織に、女性の参画を促進する。あわせて、子ども・障害者等あらゆる人々が住みやすい共生社会を実現する。」としています。

## 自治会のご案内

### ～地域参加への第一歩～

- \*自治会に関するお問い合わせは生活文化課地域コミュニティ担当 (042・470・7777 内線2432) へ。





# フィフティな川柳

入賞作品発表



## 最優秀賞

休日は パパの料理で ママが酔い

金子 秀重

## 優秀賞

お互いの 個性尊重 朗夫婦

間野 浩二

来週は 僕の番です 育児休

加藤 順一

男女平等推進センターでは、男女共同参画週間に合わせ、「フィフティな川柳」を募集しました。(募集期間は6月23日から8月14日。)  
『フィフティな川柳』とは、女性と男性が共に認め合い、支え合いながら、学校生活や仕事・家事などに進んで参加協力し、生き生きと自分らしく生きられる社会(男女共同参画社会)を5・7・5の言葉に表したものです。  
募集は今回で二回目、応募総数は132句。市内ばかりでなく、全国から多数の川柳が寄せられました。  
その中から8月19日(金)に行われた選考会(沢田改司委員長)にて次のように入賞作品が決定しました。  
※入賞者の敬称は略させていただきました。

## 入選

イクメンが フィフティメンに 進化する 岸野 孝彦

妻のメモ 読んでお米を 研いで炊く 井内 雅仁

フィフティな 夫婦紅茶を 共に注ぐ 山野 大輔

いつもパパ 今日ママだ! 保育園 石塚 なつ美 (中2)

風邪ひいて パパのおかゆが 特効薬 篠宮 拓武 (小6)

## 佳作

女性力 100パーセント 生きる街 鶴田 幸男

冷蔵庫 在庫管理は パパ得意 本田 純

育児で 我が家のパパは 超イクメン! 森 正樹

家事をしに 真直ぐ帰る パパ素敵 小林 功

仲良しの 夫婦揃って 同じ味 大石 敏和

人は皆 社会を担う パートナー 亀井 千代蔵

風呂掃除 パパはピカピカ 一年生 加藤 康史

認め合い 同じ目線の パートナー 竹重 満夫

母の味 あと何年で まねできる 坂野 美夏 (小6)

休みのパパ 子どもと遊ぶと すぐギター 堀添 みちる (小1)

### 『フィフティな川柳』作品展示のお知らせ

10月7日(金)から31日(月)まで男女平等推進センターにおいて、入賞作品の展示をいたします。ぜひご来館ください。

◀平成22年度入選川柳の作品展示

※「フィフティな」とは、男女共同参画社会の形成をめざす考え方を、男女平等推進センターの愛称『フィフティ2』から東久留米市が独自に表した言葉です。



## 『結婚の学校』

ワタシが彼を選ぶ10の授業

池内ひろ美著 幻冬舎 / 1,000円 (税込)

男女がより仲良くなれる「結婚の授業」



男女が生涯を共にし、一緒に人生を築いていく「結婚」は、男女共同作業の最たるものと言える。ただし、男と女は「性」という根本的なものが違うわけで、だからときにはケンカしたり、またせつかく結婚しても結局離婚してしまうこともある。平成21年の離婚件数は25万3000組(厚生労働省平成21年人口動態統計の

年間推計より)という現実において、まだ結婚していない人は異性とうまく暮らしていけるのか不安を抱くこともあるだろうし、既婚の人でさえ伴侶との結婚が正しかったのかどうか悩むこともあるかもしれない。しかし、そんな「結婚」に対する不安を払拭してくれる本が、この『結婚の学校』だ。よくある結婚についての本は、主に「結婚するための方法」が書かれていることが多いようだが、本書は違う。結婚後後悔しないためにはどうしたらいいかという、「間違った結婚をしないための方法」が書かれているところが特徴だ。よっ

て、結婚前の人だけでなく、既婚者も「配偶者に間違った対応などをしてないため」に読める本なのである。例えば、未婚者が恋人に対して結婚するよう決意させるのに有効な「褒め言葉リスト」が掲載されているが、それは夫婦の関係を円滑にするための魔法の言葉としても使用できるし、またパートナー間の相性はなかなか説明しにくいものだが、それを五感+第六感からひも解いていくところなども、未婚既婚合わせ、異性とよ

りいい付き合ひをするための適切なアドバイスを得ることができる。さらに、タイトルに授業という言葉がつけられていることからわかるように、「二時限目 国語(対人コミュニケーション)」「六時限目 技術・家庭(家事分担)」など、まるで授業を受ける感覚で楽しく読み進められる点も大きなポイント。そしてすべての授業を受け終わったころには、結婚についてより明るい展望を持つことができるはず。「間違った結婚をしない方法」を知るといことは、男女が仲良く暮らす秘訣を知ること。本書を参考に男女仲睦まじく過ごし、人生をより充実したものにしてもらいたい。

## 『くじけないで』

柴田トヨ著 飛鳥新社 / 1,000円 (税込)

朝はかならずやってくる



本作品の著者、柴田トヨさんは1911年6月生まれの100歳！昨年、99歳の誕生日を前に初の詩集「くじけないで」を刊行した。腰を痛め、趣味の日舞ができなくなり、気落ちしていたときに、ご子息から詩作を勧められた。90歳を超えてからのことだった。新聞に投稿した詩

が入選したのをきつかけに度々投稿する。「いい風に吹かれたみたいに、さわやかな気分になる」と、選者を始め多くの読者を魅了し、詩集の発刊へとつながった。明治、大正、昭和そして平成と1世紀を生き、うれしいことも辛いこともたくさん経験してきた柴田さん。ご自身の心の機微を素直につづった詩の一節一節は、読み手の心にすうーっと入ってくる。「貯金」という詩が素晴らしい。「私ね 人から やさしさを貰ったら、心に貯金をしておくの さびし

くなつた時は それを引き出して元気になる あなたも 今から 積んでおきなさい 年金より いいわよ」未曾有の震災を経験して、私たちの暮らしや価値観も変わりつつある。目には見えない大切なものに今さらながら気が付いた。何気ない日常の有り難さ、人との絆、他者を思いやる優しさ……。柴田さんの詩には難しい言葉は出てこない。けれど説得力がある。「私 辛いことが あつたけれど 生きていてよかった あなたもくじけ

ずに」は本書のタイトルになっている。「くじけないで」という題名の詩の一節だ。柴田さんは語る。「詩作でわかったことは、人生、辛くて悲しいことばかりではないということ」そして「人生、いつだってこれから。だれにも朝はかならずやってくる」と。なんと勇氣の出る言葉だろう。「くじけないで」の5文字も今ほど心に響くときもないだろう。そして心に響く言葉との出会いは人生を変えていくこともあるだろう。くじけずに、希望を持って毎日を生きていきたい。

## ファイフティ2 主催講座

市民企画講座

落語を聴いて考える 男女共同参画  
— 創作落語『じえんだーはらすめん』 —

- 日時 平成23年6月25日(土)  
午後1時〜3時
- 場所 市役所 701会議室
- 講師 千金亭 値千金(阪本真一氏)
- 企画・運営 日本昔話の中のジェンダー研究会

普段、何げなく話している言葉でも、内容によっては相手に強い不快感を与えることもある。自分が良いと思うことでも、他人は嫌だと思ふこともあるのだから、個々の気持を察して話すことが大切なのではないだろうか。



ともすると、仕事中に言わなくていいところで、やれ男の仕事だ、女の仕事だと言っていることもあるだろう。仕事において男女という性別によって役割分担をすることはハラスメントにあたる。大事なのは機会均等に仕事を任せることだと、落語を通じて講師は伝えている。

難しいテーマだが、テンポの良い落語で聴くと、すんなり心に響いて「なるほど」とうなずける。

平成23年4月から9月までに、男女平等推進センター会議室でさまざまな講座が開催されました。

### あなたの意思を伝える

パープルリボン・パッチワーク  
キルトづくり

- 日時 4/21(木) 午前10時〜正午  
4/28(木) 午後0時半〜2時半
- 講師 キルトサークル「わがままな奥様」

暴力防止運動のシンボルであるパープルリボンをモチーフにしたパッチワークキルトを製作した。参加者からは、パープルリボンの意義を知ることができ、キルトづくりも楽しかったと好評だった。

### 医療事務 スタート編

- 日時 5/25(6/1、6/8、6/15)(水)  
午前10時〜午後3時半
- 講師 田中美穂氏(東京都立職業訓練校医療事務科講師)



基本的な医療事務及び資格ガイダンス講座。定員24人に対し、110人を超える応募があり、医療事務に對する関心の高さがうかがえた。講義中は全員が私語もなく熱心にメモをとる姿が印象的だった。

### 自己表現ナビ ライター入門

「ぎらり」と光る文章講座

- 日時 5/28、6/4(土)  
午後2時〜4時
- 講師 伯野朋絵氏(編集者・ライター(株) ユック舎勤務)

毎年定員を上回る応募があり、文章で自己表現をしようとする人たちが増えていることがうかがえる。受講者からは「受講者のインタビュ記事を書き直しながら書き直すコツが学べ、楽しかった」との感想が寄せられた。

### 怒らないで!

#### 幸せ子育て家族講座

- 日時 6/18(土) 午後1時〜3時
- 講師 森山恵子氏(CSPトレーナー)

怒鳴ったり、叩いたりという暴力的なしつけではなく、適切な叱り方・ほめ方・コミュニケーションのとり方をアメリカの子育てプログラム(CSP)を通して具体的に学んだ。



### 連続講座

「あなたの生き方が未来を創る」  
〜豊かな生き方について考える

連続4回講座

- 日時 7/3(日)、7/9(土)、  
7/17(日)、7/23(土)  
午後1時半〜3時半

### 第1回 あなたの生活が変わる!

— 女の言い分 男の言い分 —

- 講師 加藤千恵氏(東京女子大学教授)

社会に残る「イエ(家)意識」を切り口に、グループワークを通して、男女共に心地よい社会の仕組みなどについて考えた。

### 第2回 今を生きるあなたへ

- 講師 永瀬伸子氏(お茶の水女子大学教授)

講師は、なぜ社会に女性の力が必要なのか、少子高齢化社会の現状と労働問題を中心に、データを交えながら話された。

### 第3回 私たちの明日〜豊かな生き方へ

- 講師 堀井紀子氏(NPO法人GEEW ELDアドバイザー、前代表理事)

DVD『ペンギンの国のクジャク』の視聴や、意見交換から、多様性を取り入れ、個を尊重した職場や社会について考えた。

### 第4回 参加者交流会

連続講座を企画した運営協議会委員と出席者間で3講座の感想を述べ合い、交流をはかった。

ファイティ<sup>2</sup>から



パープルリボン・キルト・タペストリー

～女性に対する暴力防止の願いを込めて!～



年度ごとにタペストリーにした作品です。センターでは、昨年運動期間に

DV(ドメスティック・バイオレンス)配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった者からふるわれる暴力、ストーカー、セクシュアル・ハラスメントなど女性に対する暴力は人権侵害行為です。これらの暴力防止を訴える運動のシンボルが「パープルリボン」です。パープルリボンを身につけたり、飾ったりすることは「女性への暴力をなくしたい」という意思表示につながります。またパープルリボンを身につけることで、誰にも相談できずに暴力を受けている女性に勇気を与えることができます。東久留米市男女平等推進センターには運動のシンボルであるパープルリボンの美しいキルト・タペストリーが飾られています。これは1年間に来所された方や、講座に参加された方が大きなキルト台に貼ったたくさんのリボンを、

合わせて、パープルリボンで作るリボンレイ・ストラップ講座、今年4月には「パープルリボン・パッチワークキルトづくり」講座を開催し、参加された方たちの中から「パープルリボン手芸会」というサークルが立ち上がりました。今年のパープルリボン・キルト・タペストリーは、手芸会の皆さんが4月の講座で学んだ作品を応用して制作しました。



平成22年度パープルリボン・キルト・タペストリーとパープルリボン手芸会の皆さん

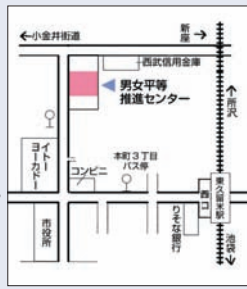
「パープルリボン手芸会」では毎月1回、センターの会議室でメンバーの方たちがさまざまな手芸をしています。制作の合間には、すでに来年のタペストリーに向けての相談が始まっています。メンバー募集中です。どなたでも気軽に参加ください。

毎年11月12日から25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

男女平等推進センターをご利用ください。

施設案内

- 交流ロビー
参考図書・資料コーナー
会議室 保育コーナー
会議室の使用申請は、使用日の2カ月前の初日から使用前日まで。



専門相談

- 女性の悩みごと相談
毎週月曜日(祝日を除く)の午後1時30分から午後4時30分
女性弁護士による法律相談
毎月第1金曜日の午前9時30分から午後0時30分
※いずれの相談も予約制(先着順)。詳しくはセンターへ。

所在地・開館時間

東久留米市本町3-9-1-102
TEL (042) 472-0061 FAX (042) 472-0053
メール fifty2@higashikurume-city.jp

開館時間/月、水～日曜日 午前9時から午後9時30分
(午後7時30分以降の会議室利用がない場合は、午後7時30分まで)
閉館日/火曜日と年末年始(12月29日～1月3日)

今後の講座予定

2011年

- 10/15(土) 市民企画講座
「パパも一緒に子育てを—親子で楽しい赤ちゃん体操の実技と理論—」
10/29(土) パパクラブ@東久留米共催
「パパクラブ チャリティーウォーク2011」
11/1(火) デジマムNet東久留米共催
「デジマムにおまかせ!
就職・再就職のためのITスキル～Excel2007初級編～」
11/16(水) 「心もほっとに編み上げる
～パープルリボン小物づくり～(仮題)」
11/19(土) 「気づかない…DV」を考えるpart7
「ふたりの関係がおかしいと感じたら…(仮題)」
12/3(土) 市民企画講座
「今ドキ(時)!♥若者たちのワークライフバランス:
働くだけが人生じゃない!仕事以外でのあなたは?」
12/11(日) 市民企画講座
「現代家族と子どもの貧困
—子ども時代の幸せ平等のために」

※2011年12月までの講座情報です。

\*全ての講座に、2歳以上未就学児の保育あり。
\*申し込み制。必ず事前に男女平等推進センターへ、時間・場所などをご確認ください。



「ときめき」は、年2回発行。公募の市民による編集委員6人が企画編集しています。内容についてあなたのご意見・ご感想を市民部生活文化課、または男女平等推進センター宛にお寄せください。

●表紙/「まがたま工房」渡邊徳明氏のガラス工芸作品